【研究ノート】

ブラジルの国家共通カリキュラム基礎（Base Nacional Comum Curricular (BNCC)）における幼児教育：
そこに掲げられる子どもの学ぶ権利・学習と発達の目標

京都先端科学大学　　田村　徳子

はじめに

幼児教育は、特に 2000 年代に入ってから世界各国でその重要性が認識されるようになった。その推進力となったのは OECD や UNESCO、UNICEF、世界銀行などの国際機関であり、社会的・経済的効果や子どもの人権の観点からその必要性が訴えられている[1]。

こうした幼児教育の世界的潮流のなか、ブラジル連邦共和国（以下、ブラジル）では、2017 年にブラジルの国家共通カリキュラム基礎（BNCC: Base Nacional Comum Curricular）が制定され、それによって幼児教育の全国的なカリキュラム基盤が提供されるようになった。ブラジルで幼児教育が正式に公教育システムのなかに組み込まれたのは、民政移管後の 1988 年に制定された現行のブラジル共和国憲法においてであった[2]。それ以降、幼児教育のアクセスの拡大と質の保障が両輪をなして進められている。国家共通カリキュラム基礎はこうしたブラジルの幼児教育の発展のなかで確立されたものである。本稿では、この国家共通カリキュラム基礎における幼児教育の項目を訳出することで、その内容を把握することを目的とする。

本論に入る前にブラジルの幼児教育制度の簡単に説明しておく。ブラジルは 26 州・1 連邦直轄区からなる連邦国家であり、州・連邦直轄区の下に日本の市町村にあたるムニシピオ（Município）が 5,500 以上存在する。教育は各州および各ムニシピオが司っており、幼児教育に関しては、主としてムニシピオが管轄している。ブラジルの幼児教育は 0 歳から 5 歳までの年齢層が対象とされ、0 歳から 3 歳までの子どもは保育所（Creche）、4 歳から 5 歳までの子どもは幼稚園（Pré-escola）に通うこととなっている（教育基本法第 30 条（2013 年改正））。また、義務教育は 4 歳から 17 歳とされており（ブラジル共和国憲法第 208 条 I （2009 年改正）、教育基本法第 4 条 I （2013 年改正））、つまり幼児教育に関しては幼稚園の就学が義務となっている。2018 年の全国学校調査によれば、保育所には 3 歳までの子どもの約 32%にあたる 360 万人、幼稚園には 4 歳と 5 歳の子どもの約 92%にあたる 520 万人の子どもが在籍している[3]。

1.　国家共通カリキュラム基礎（BNCC）の幼児教育で掲げられる子どもの学ぶ権利

国家共通カリキュラム基礎は、ブラジル共和国憲法（1988 年制定）や教育基本法（1996 年制定）、国家教育計画 2014-2024 年（PNE: Plano Nacional de Educação 2014/2024、2014 年制定）などにもとづいて策定されたものであり、基礎教育（幼児教育、初等教育、中等教育）で学ぶべき内容が教育段階別に提案されている。「はじめに」でも述べた通り、ブラジルの教育行政は、連邦、州・連邦直轄区、ム

ニシピオが担っている。国家共通カリキュラム基礎の制定には、これら三者間の調整が図られ、教育の質が向上すること、そして一定の水準の教育が提供されることへの期待がある。ただし、そこで提案される学習内容には法的な強制力はなく、あくまでも規範とされている。

国家共通カリキュラム基礎では、開発すべき 10 の汎用的能力が提示されるとともに、幼児教育、初等教育、中等教育の 3 つの教育段階別に学びの権利が提示されている。幼児教育段階に着目してみると[4]、幼児教育における学ぶ権利として、①共に暮らす、②遊ぶ、③参加する、④探求する、⑤表現する、⑥自分自身を知るの 6 つが掲げられ、以下のように提示されている。

(1) 他の子どもや大人と共に、小集団と大集団でさまざまな表現法を用いて生活し、自身や他者についての知識を広げ、文化や人々の違いを尊重する。
(2) さまざま方法で、さまざまな空間と時間において、さまざまな相手（子どもと大人）と毎日遊び、文化作品との触れあいや、知識、想像力、創造力、そして、感情的、身体的、感覚的、表現的、認知的、社会的、関係的な経験を広げ、多様化させる。
(3) 学校経営の計画や教育者が提案する活動だけでなく、日常生活の活動においても、遊びや道具、環境の選択といったことに大人や他の子どもと共に積極的に参加し、さまざまな表現法を発達させたり、知識を増やしたり、決定したり、立場を確立したりする。
(4) 学校や学校外において、動き、身振り、音、形、質感、色、言葉、感情、変容、関係、歴史、物体、自然の要素を探求し、さまざまな様式（芸術、文字、科学、技術）を通して文化についての知識を広げる。
(5) 対話的で創造的で感覚的な主題として、自身のニーズ、感情、感覚、疑問、仮説、発見、意見、質問をさまざまな表現法で表現する。
(6) 学校や家庭、地域での助けあい、関わりあい、遊び、言語に関するさまざまな経験において、自分自身を知り、個人的、社会的、文化的アイデンティティを構築し、自身とその集団の肯定的なイメージを構成する。

2. 国家共通カリキュラム基礎（BNCC）の幼児教育における学習と発達の目標

国家共通カリキュラム基礎では、以上の 6 つの学ぶ権利を保障するために、つぎの 5 つの経験領域が設定されている。すなわち、①線、音、色、形、②私、他者、私たち、③体、ジェスチャー、動き、④聞く、話す、考える、想像する、⑤空間、時間、数量、関係、変容である。これら 5 つの経験領域には、それぞれ先に示した 6 つの学ぶ権利がさらに具体化されて示されるとともに、学習と発達の目標が子どもの発達段階別（①乳児期：0 歳～1 歳 6 か月、②幼児前期：1 歳 7 か月～3 歳 11 か月、③幼児後期：4 歳～5 歳）に設定されている。表 1 は、5 つの領域で掲げられている学ぶ権利と、学習と発達の目標を訳出したものである。

表１　国家共通カリムラム基礎の幼児教育で掲げられる学ぶ権利と学習と発達の目標（経験領域別）

①経験領域「線、音、色、形」

学ぶ権利

１）　地域や他の文化（造形芸術、音楽、ダンス、演劇、映画、祝い、祭り）の芸術的および文化的表現を仲間や教師と**共にし**、楽しむ。

２）　おとぎ話の遊びや役割演技、あるいは伝統的集いのための舞台装置や衣装をつくり、さまざまな音、リズム、形、色、質感、物体、素材で**遊ぶ**。

３）　描写、模倣、音楽、ダンス、演劇、音楽を演出するために、素材、物質、物体および技術資源のさまざまな使用法と組みあわせの可能性を**探求する**。

４）　環境の組織化（日常生活と特定の行事の準備の両方）、テーマの定義、レクリエーションや芸術活動で使用される素材の選択に関連する決定と行動に**参加する**。

５）　歌ったり、踊ったり、彫ったり、絵を描いたり、ステージに出たりして、感情、ニーズ、アイデアを**表現する**。

６）　地元や他の地域の芸術的・文化的創造物に触れることで**自分自身を知る**。

学習と発達の目標

１）　乳児期　：　自分の体や環境にある物体で生成された音を探求する。
　　幼児前期：　さまざまな音楽のリズムにあわせて、素材、物体、楽器を使って音を生成する。
　　幼児後期：　おとぎ話のゲーム、出演、音楽制作、イベントの際に、素材、物体、楽器によって生成された音を使用する。

２）　乳児期　：　絵描き道具を使用し、さまざまなサポートなかで図形を描く。
　　幼児前期：　3 次元の物体を作る際に、利用できるさまざまな材料（土、粘土）を使用し、色、手触り、表面、平面、形状、および量を調べる。
　　幼児後期：　描写、色付け、組みあわせ、折り畳み、彫刻を通して自由に表現し、２次元および３次元の作品をつくる。

３）　乳児期　：　遊びの歌、曲、メロディーに関連するさまざまな音源や素材を探求する。
　　幼児前期：　遊びの歌、曲、メロディーを歌う際に、利用可能なさまざまな音源を使う。
　　幼児後期：　音質（強さ、長さ、速さ、音色）を認識し、音の作品や、音楽、音を聴く際に使用する。

②経験領域「私、他者、私たち」

学ぶ権利

１）　仲間のさまざまな民族、人種、性別、宗教のアイデンティティおよび所属を認識し、尊重しながら、子どもと大人の小集団で**共に暮らす**。

２）　さまざまな仲間と**遊び**、想像力と連帯感を育てる。

３）　さまざまな状況で多様な仲間と対話する異なる方法を**探求し**、世界の感覚と他者への感受性を広げる。

４）　自身や環境への配慮だけでなく、教師から提案された活動にも、日常のなかで積極的に**参加する**。

５）　他の子ども、あるいは大人に自身のニーズ、情緒、感情、疑問、仮説、発見、意見、反対を**表現する**。

６）　**自分自身を知り**、個人的および文化的アイデンティティを構築し、それらの特徴や他の子どもや大人の特徴を評価し、偏見や差別的な態度を特定し、それと戦うことを学ぶ。

学習と発達の目標

１）　乳児期　：　自身の行動が他の子どもや大人に影響を与えることに気づく。
　　幼児前期：　子どもや大人との交流における気遣いと連帯の態度を示す。
　　幼児後期：　他者への共感を示し、人々にはさまざまな感情、ニーズ、考え方、行動の方法があることを認識する。

２）　乳児期　：　自身が参加する遊びや交流のなかで自身の体の可能性と限界を認識する。
　　幼児前期：　自身に対する肯定的なイメージと、困難や課題に立ち向かう能力への自信を示す。
　　幼児後期：　自身の能力に自信を持って独立して行動し、自身の成果と限界を認識する。

３）　乳児期　：　空間、素材、物体、おもちゃを探す際に、同じ年齢層の子どもや大人と交流する。
　　幼児前期：　同じ年齢層の子どもや大人と物体や空間を共有する。
　　幼児後期：　対人関係を拡大し、参加と協力の態度を育む。

４）　乳児期　：　ジェスチャー、クーイング、単語を使って、ニーズ、欲求、感情を伝える。
　　幼児前期：　仲間や大人とコミュニケーションをとり、彼らを理解しようとし、自分自身を理解させる。
　　幼児後期：　自身の考えや気持ちをさまざまな人や集団に伝える。

５）　乳児期　：　自身の体を認識し、食事、衛生、遊び、休息の際に、自身の気持ちを表現する。
　　幼児前期：　人々が異なる身体的特徴を持っていることを認識し、これらの違いを尊重する。
　　幼児後期：　自身の身体的特徴を大切にし、自身が共に暮らす他者（子どもと大人）の特徴を尊重する。

６）　乳児期　：　同じ年齢層の他の子どもや大人と交流し、社会生活に適応する。
　　幼児前期：　交流や遊びにおける社会的相互作用の基本的なルールを尊重する。
　　幼児後期：　さまざまな文化や生き方に興味と敬意を表す。

７）　乳児期　：　大人の導きで、交流や遊びの対立を解決する。
　　幼児前期：　子どもや大人との交流における対立に対処するために、相互尊重にもとづいた方策を用いる。
　　幼児後期：　自身に対する肯定的なイメージと、困難や課題に立ち向かう能力への自信を示す。

③経験領域「体、ジェスチャー、動き」

学ぶ権利

１）　子ども大人が**共に暮らし**、自己管理、ダンス、音楽、演劇、大道芸、物語、遊びを通して、身体的文化の種類を体験する。

２）　身体的文化と動きのレパートリーを創造的に使い、**遊ぶ**。

３）　動きやジェスチャー、見た目、音、模倣の制作の幅広いレパートリーを**探求し**、身体を使った空間の使い方を発見する。

４）　日常のみならず、遊びや演劇、ダンス、歌、物語の読み聞かせにおける感情と描写を身体的に**表現する**。

5） 自身の身体を使った交流や探求における多様な機会において**自分自身を知る**。

学習と発達の目標

1 乳児期 ： 感情、ニーズ、欲求を身体的に表現するために体の部位を動かす。
幼児前期： 自己管理やゲーム、遊びにおいて文化的なジェスチャーや動きを活用する。
幼児後期： 日常生活や、遊び、ダンス、演劇、音楽において、感情、感覚、気持ちを体で表現する多様な方法を構築する。

2 乳児期 ： 居心地が良い、意欲をかき立てられるような環境での遊びや交流における体の可能性を体験する。
幼児前期： さまざまな性質の遊びや活動をおこなう際に、前、後、上、下、内側、外側などの概念に導かれて、空間で自分の体を動かす。
幼児後期： 遊びやゲーム、物語の聞き取りや語り直し、芸術活動などで、体の使い方の管理と適切性を示す。

3 乳児期 ： 他の子ども、大人、動物のジェスチャーや動きをまねする。
幼児前期： 空間を移動する方法（飛び上がる、飛び下がる、ダンスする）、動きの組みあわせ、方向づける方法を探る。
幼児後期： 遊び、ゲーム、ダンス、演劇、音楽などの芸術活動で、動き、ジェスチャー、見た目、模倣を制作する。

4 乳児期 ： 自身の体の管理と自身の幸せの促進に参加する。
幼児前期： 自身の体の管理における進歩的な独立性を示す。
幼児後期： 衛生、食事、快適さ、外見に関連する自己管理の習慣をつける。

5 乳児期 ： 握る、抱える、投げる動きを利用して、さまざまな素材や物体を扱う可能性を広げる。
幼児前期： 手を動かす能力を段階的に発達させ、描く、色を塗る、破る、折るなどの動作を習得する。
幼児後期： さまざまな状況での興味やニーズにあわせて、手の運動能力を調整する。

④経験領域「聞く、話す、考える」

学ぶ権利

1） 日常のコミュニケーションの場で子どもと大人とが**共に暮らし**、思考する、想像する、感受する、物語る、対話する、知る方法を構成する。

2） スピーチ、早口言葉、なぞなぞ、暗記、輪になっての遊びとそこでの歌、画像や文字などのゲームやテキストで**遊び**、地元の伝統や他の文化の文化的表現のレパートリーを拡大し、特に口頭的、身体的、音楽的、演劇的、記述的な表現法を豊かにする。

3） 輪になっての会話や、体験の語り、物語や詩の朗読や読み取り、物語の作成、推敲、描写、表現で役割を果たし、印刷物や多様な表現法の探求に**参加し**、思考を整理するためのさまざまな方法を構築する。

4） 詩、歌、物語の単語の意味に加えて、ジェスチャー、表現、言語の音、韻、画像、テキストを**探求し**、これらの要素を新しい話、筋道、展開、物語、文章を作成するために活用する。

5） 仲間や大人が伝えていることを考えながら、複数の表現法を使用して、感情、アイデア、認識、欲求、ニーズ、視点、情報、疑問、発見を**表現する**。

6） 人、遊び、場所、物語、作者、表現法のジャンルに対する自身の好みと、口頭言語で制作することの自身の興味を認識および再認識し、**自分自身を知る**。

学習と発達の目標

1） 乳児期 ： 自身の名前を認識し、自身と共に暮らす人の名前を認識する。
幼児前期： 子どもや大人と対話し、自身の欲求、ニーズ、感情、意見を表現する。
幼児後期： 口頭および筆記の言語（自発的な執筆）、写真、絵、その他の表現形式を通じて、自身の経験についての考え、欲求、感情を表現する。

2） 乳児期 ： 朗読される詩や演奏される音楽を聴いて興味を示す。
幼児前期： さまざまな音を識別して作り出し、輪になっての歌う場面や詩的な文脈のなかで韻や頭韻を認識する。
幼児後期： 歌の遊び、詩、曲を考え、韻、頭韻、リズムをつくる。

3） 乳児期 ： 物語を読んでもらったり、語ってもらったりすることに興味を示し、イラストや大人の読者の動き（本をもってページをめくるしぐさ）を観察する。
幼児前期： 物語や他の文章の朗読を聞き、興味と関心を示し、文章とイラストを区別し、大人の読者が読む方向（上から下、左から右）を追う。
幼児後期： 本を選んで読み、テーマやイラストに導かれ、身近な言葉を見つけようとする。

4） 乳児期 ： 大人の読み手の要求に応じて、物語のイラストの要素を認識し、それらを指摘する。
幼児前期： 読まれた物語の事実に関する質問をしたり、回答したりし、シナリオや登場人物、主要な出来事を特定する。
幼児後期： 聞いた物語を語り直し、ビデオと役割演技のシナリオをまとめて企画し、文脈や登場人物、構成を定義する。

5） 乳児期 ： 物語を読んだり歌ったりするとき、大人のイントネーションやジェスチャーの変化を模倣する。
幼児前期： 本を選んで読み、テーマやイラストに導かれ、身近な言葉を見つけようとする。
幼児後期： 教師を筆記者として、再話作品を制作するために、聞いた話を再び語る。

6） 乳児期 ： 動き、ジェスチャー、クーイング、発話、その他の表現形式を使い、他者とコミュニケーションをとる。
幼児前期： 提案されたイメージやテーマにもとづいて、口頭で物語を作り伝える。
幼児後期： 重要な社交の場において、口頭および書面（自発的な執筆）で自身の物語を作る。

7） 乳児期 ： さまざまな媒体（本、雑誌、漫画、新聞、ポスター、CD、タブレットなど）の印刷物や視聴覚資料を知り、触れる。
幼児前期： さまざまな文章の媒体に触れ、それらの社会的用途の認識を示す。
幼児後期： 既に知っている媒体においては、図形を観察するとともに／または読み取りの戦略を立てて、語られた文章のジャンルについての仮説を立てる。

8） 乳児期 ： 文章のさまざまなジャンル（詩、寓話、短編小説、レシピ、漫画、広告など）の文章を聞く場に参加する。
幼児前期： 文章のさまざまなジャンル（パーレンダ、冒険物語、漫画、部屋のポスター、メニュー、ニュースなど）との触れあいを拡大するために、文章に触れたり、聴く場に参加したりする。
幼児後期： 大人が読んだり、自分で読んだりするために、既に知っているジャンルの本や文章を選択する（記憶からの探索やイ

	ラストの読み取りなど、これらのテキストに関する自身のレパートリーにもとづいて)。
9）	乳児期　：　書くためのさまざまな道具や補助具を知り、触れる。 幼児前期：　書くためのさまざまな道具や補助具を使い、文字やその他の図形記号を描画したり、写したりする。 幼児後期：　書き言葉に関連する仮説を立て、自発的な書き方で単語や文章を記録する。
⑤経験領域「空間、時間、数量、関係、変容」	
学ぶ権利	
1）	子どもと大人が**共に暮らし**、自然界と社会を調べる。
2）	自然やさまざまな文化の素材、物体、要素で**遊び**、形、質感、匂い、色、サイズ、重さ、密度の多様性に気づく。
3）	自然界と社会の特徴を**探求し**、それらに名前を付け、それらをグループ化し、空間、時間、量、関係および変容の概念に関連する基準に従ってそれらを秩序づける。
4）	コンパス、懐中電灯、虫眼鏡などの探索ツールや、カメラ、ビデオカメラ、レコーダー、プロジェクター、コンピューターなどの記録および通信機器を使用して、自然の要素、物体、状況、空間の特性を調査する活動に**参加する**。
5）	物体、生物、自然現象、環境特性についての観察、説明、描写を**表現する**。
6）	物理的世界および社会との関係における関わりを認識することによって、**自分自身を知り**、個人的および文化的アイデンティティを構築する。
学習と発達の目標	
1）	乳児期　：　物体と素材の特性（匂い、色、味、温度）を調べて発見する。 幼児前期：　物体の特徴と特性（手触り、質量、大きさ）の類似点と相違点を調べて説明する。 幼児後期：　物体間の比較関係を確立し、それらの特性を観察する。
2）	乳児期　：　物理的な世界との関わりのなかで因果関係（溢れる、染める、混ぜる、動かす、除くなど）を調べる。 幼児前期：　日常の出来事や自然現象（日光、風、雨など）を観察し、報告し、説明する。 幼児後期：　自然現象と人的現象を含む経験において、さまざまな材料に対する作用から生じる変化を観察し説明する。
3）	乳児期　：　行動と観察、操作、実験、発見を通じて環境を探求する。 幼児前期：　施設内外の動植物の世話の状況を他の子どもと共有する。 幼児後期：　自然やその現象、保全に関する疑問に答えるための情報源を特定し選択する。
4）	乳児期　：　自身と物体の移動の経験を通して、空間を操作し、試し、配置し、探求する。 幼児前期：　空間的関係（内側、外側、上、下、上方、下方、間、側面）と時間的関係（前、中、後）を特定する。 幼児後期：　さまざまなサポートを受けながら、複数の表現法（描画、数字による記録、または自発的な執筆）を使用して、観察、操作、測定を記録する。
5）	乳児期　：　多様な材料に触れ、それらの間の相違点と類似点を比較する。 幼児前期：　特定の属性（サイズ、重量、色、形状など）を考慮して、物体を分類する。 幼児後期：　物体と図を類似点と相違点に従って並べ替える。
6）	乳児期　：　交流や遊び（ダンス、ブランコ、すべり台など）で、さまざまなリズム、速度、流れを体験する。 幼児前期：　基本的な時間の概念（今、以前、間、以後、昨日、今日、明日、遅い、速い、すぐ、ゆっくり）を使う。 幼児後期：　自身の誕生と発達、自身の家族と地域の歴史について、重要な事実を報告する。
7）	乳児期　：　―（記載なし） 幼児前期：　さまざまな状況において、物体や人、本などを口頭で数える。 幼児後期：　番号をそれぞれの数量に関連付け、前、中、後の順番を識別する。
8）	乳児期　：　―（記載なし） 幼児前期：　子ども（女の子と男の子、存在と不在）の数と、同じ性質の物体（人形、ボール、本など）の数を数字で記録する。 幼児後期：　基本的な図形を作り、大きさ（重さ、長さなど）を表現する。

出所：Ministério da Educação. *Base Nacional Comum Curricular*(http://basenacionalcomum.mec.gov.br/images/BNCC_EI_EF_110518_versaofinal_site.pdf、2021 年 12 月 1 日取得)をもとに、筆者作成。
注：下線強調は筆者加筆。原文では、太字で表記されている。

学習と発達の目標に関しては、たとえば、①経験領域「線、音、色、形」を例にとってみてもわかるとおり、1）音に関する学び、2）平面図形や立体図形に関する学び、3）音楽に関する学びといったテーマでカテゴリー化され、それぞれに子どもの発達段階別に学習と発達の目標が示されている。

さらに、これは表 1 には示していないことであるが、連邦教育省は各学習と発達の目標に対し、国家共通カリキュラム基礎の内容外として位置づけた「学習体験へのアプローチ」と「カリキュラムの提案」を提示している[5]。前者は子どもの発達に関する情報や実践に向けての注意点が記載され、後者は実践的に向けたカリキュラムを策定する際のヒントが示されている。

おわりに

以上がブラジルの国家共通カリキュラム基礎の幼児教育の具体的な内容である。最後に、その内容を

通して見えてきたブラジルの幼児教育の注目すべき点を 2 つ指摘しておきたい。1 つは、子どもの学びの権利が国家共通カリキュラム基礎の軸となっていることである。学びの権利として掲げられている①共に暮らす、②遊ぶ、③参加する、④探求する、⑤表現する、⑥自分自身を知るの 6 つを、教育目標ではなく、あえて子どもの権利として掲げ、その保障をめざし学習内容が構成されている点は注目に値する。もう 1 つは、当然のことではあるが、幼児教育が独立したものではなく、初等教育や中等教育と相互に関連しあい、基礎教育という枠のなかで子どもの発達と能力開発がめざされていることである。第 1 節でも言及したように、国家共通カリキュラム基礎は基礎教育全体で身につけるべき汎用的能力を提示している。本稿で確認した幼児教育のカリキュラム内容は、それらを涵養するための一要素として位置づけられている。このように基礎教育における一貫した子どもの発達と能力開発を、多元的（知的、身体的、感情的、社会的、文化的）にアプローチすることを、国家共通カリキュラム基礎では「包括的な教育（Educação Integral）」という概念で説明している。このことは幼児教育に限定したものではないが、ブラジルの教育を捉える重要な概念として捉えられるだろう。

本稿では、ブラジルの幼児教育が、子どもの学びの権利を保障すること、そしてそれらが基礎教育という長期的な教育プロセスのなかで包括的に保障されるべきものとして確立されていることが明らかとなった。ではこうした考え方はどのような歴史的背景から生まれ、今日の政策に反映されたのであろうか。そこには、ブラジル社会に底流する子どもの捉え方をめぐる教育思想があるものと推測される。それらの理解を深めていくことを今後の課題としたい。

付記

本研究は JSPS 科研費 20K13917 の助成を受けたものである。

注

[1] 浜野隆「幼児教育・保育の国際的動向」『比較教育学研究』第 63 号、2021 年、2 頁。

[2] ブラジル共和国憲法第（矢谷通朗（編訳）『ブラジル連邦共和国憲法：1988 年』（経済協力シリーズ、第 154 号）アジア経済研究所、1991 年。

[3] INEP, Ministério da Educação, Governo Federal. *Notas Estatísticas: Censo Escolar 2018*. 2019 (https://download.inep.gov.br/educacao_basica/censo_escolar/notas_estatisticas/2018/notas_estatisticas_censo_escolar_2018.pdf 、2021 年 12 月 23 日取得).

[4] Ministério da Educação. *Base Nacional Comum Curricular* (http://basenacionalcomum.mec.gov.br/images/BNCC_EI_EF_110518_versaofinal_site.pdf、2021 年 12 月 1 日取得).

[5] Ministério da Educação. *Download da BNCC* (http://download.basenacionalcomum.mec.gov.br/、2022 年 1 月 21 日取得)よりダウンロード可能な幼児教育のデータに提示されている。

Early Childhood Education in National Common Curricular Base (BNCC) in Brazil:

Children's Right to Learn and the Goals of Learning and Development

Noriko TAMURA

In Brazil, the Common National Curriculum Base (BNCC: Base Nacional Comum Curricular) was created in 2017, providing a national common standard for early childhood education (ECE). The purpose of this paper is to clarify the content of ECE in BNCC through its translation.

The BNCC shows what to learn in basic education (ECE, primary education, secondary education). However, it is not legally enforceable but is a norm that guarantees a common level of learning for all children. The BNCC has six rights to learn in ECE: (1) living together, (2) playing, (3) participating, (4) exploring, (5) expressing, and (6) knowing oneself. To guarantee these learning rights and skill development, the following five experience areas are set; (1) Lines, sounds, colors, shapes, (2) I, others, us, (3) Bodies, gestures, movements, (4) Listening, speaking, thinking, imagining, (5) Space, time, quantity, relationships, transformation. Based on these rights to learn and experience areas, the child's developmental stages are divided into three, and learning and development goals are set for each group.

Through the analysis, the following two points can be noted regarding ECE in Brazil. One is that not the educational goal, that is, what should be achieved, but the children's right to learn, that is, what should be guaranteed is the core. The other is that ECE is positioned within the framework of basic education, with the aim of pluralistically developing children and developing their abilities, which is explained as a concept of "comprehensive education (educação integral). "